

総合計画審議会からの意見

発言内容	対応
公共施設マネジメントについて施設を潰していくと言うことか	P27の戦略の柱にあるように行政サービスを最適かつ持続可能なものとするため、既存の公共施設等の統廃合による廃止だけではなく、移転、新築、改修等あらゆる手段を想定して、今後のあり方を見直し、市民ニーズに即した形にしていくことを進めるとういことです。
外部環境の変化だけではなく外部環境を内部化したときにどうするか 掛川の付加価値生産性の中でお金がどうあるのか	P26の(4)の柱に考え方を反映しました。地域内で人やものが繋がり、活力ある産業を中心に経済循環可能なまちとしましたが、様々な連携を通じて経済循環を図ることを考えています。
テクノロジーと人間の関係が非常に大事になってくる 何が本当に人間にとって幸せか、健康かについての目的と方法を間違えないようにしてほしい	P25の冒頭に考え方を反映しました。今後、テクノロジーが進展することは間違いないため、少子高齢・人口減少等が引き起こす問題や課題が発生する各場面において、最新テクノロジーを計画的かつ効果的に活用することにより、「すべての人に優しい」まちを目指していきたいと考えています。
区長さんたちとまちづくり協議会との関係、すみわけをこれからの公共政策やまちづくりを考えていくときに整理していかなければならない。 今後は、働く人も参加できるような仕組みが必要。	現在、地区集会のあり方を検討しており、並行して地域自治組織のあり方についても地域の皆さんと検討を重ねていきます。
高校生の子たちが掛川に魅力を感じてくれて掛川に住んで企業に勤めるためにどうするかを考えた方がよい。	総合計画を改定するに当たり、市民委員会の21人のうち、10人を市内4校から1校2から4名参加していただいたことや、20年後の未来を考える検討会に掛川西高の生徒6名に参加していただきました。今後、市内の高校と包括連携協定の締結を進めていく予定があり、行政側だけでなく、高校と共に検討していく予定です。これらの取組を今度、さらに拡大、充実していくことにより、高校生の掛川への愛着を高めて、市内企業への就職、さらに定住に繋げていきたいと考えています。
掛川市は、大日本報徳社の道徳と経済、それと同じだと思うが、テクノロジーが進んでも支えていかなければならない。哲学を植え付けていかなければならない	P24にあるように報徳の考え方は掛川の根底をなすものとしてとても大切なことだと考えています。個別施策においても位置付けていきます。
掛川市の稼ぎ頭は何か明確に示した方がよい。 掛川市の主力産業として観光をどのくらい考えていくのかというのも明らかにした方がよい。 人に来てもらう交流など、そういうところと繋げて一つ柱を作った方が政策的に自然になる。	P26の(4)の柱に考え方を反映しました。
住居地域の中に工場があるが、思い切って工業と住居地域で分けて集めるということを考えていく必要があるのではないか。	P111の②用途地域内低・未利用地における宅地の整備促進として考え方を反映しました。
総合計画の最大の焦点は、人口減少への対応。重要なテーマは「人口減少への対応」「高齢化への対応」である。	人口減少、高齢化への対策は、簡単なものではなく、多様な視点や切り口からの対策が必要であると考えています。今回の総合計画では、人口減少、高齢化への対策を見据え、個別施策において多様な施策や具体事業を検討しています。

外国人居住者の増加施策、目標値と想定される課題への対応	P27(6)に記載したように、多様性を認め合う地域社会として外国人居住者を受け入れられる地域社会を築くことを掲げています。(1)の教育においても多様性を認められる教育をする等、多様な視点から、多文化共生をさらに進めていくことを方針として掲げました。また、具体的な施策については個別施策で掲げています。
出生率向上と自然増のための施策と目標値	P27(2)で市民総ぐるみで次世代を育成することを考えています。2-①と②に記載しているとおり、行政が取り組むだけではなく、家庭・地域・企業と連携して多様な施策に取り組んでいきます。
社会増のための施策と目標値	P26の(4)の関係人口や交流人口の拡大を目指し、地域資源を活かした体験交流型観光やシティプロモーションを積極的に進めること、P27の(5)の都市基盤において、安全・安心なインフラ整備とともに、空き家対策等も進めていくことを考えています。
移動の確保による自立生活支援	P27(5)移動手段の最適化を目指し、既存の公共交通の根本的な見直し、近い将来に実現を予想されるテクノロジーの活用等を行い、移動困難者の移動手段を確保し、より自立した生活への支援を進めていきます。
健康・医療施策による自立生活支援	P25(2)の健康寿命の延伸とともに、自立生活を支援するため、他職種連携を行い、「ふくしあ」を中心とした地域包括ケアを充実していくことを想定しています。また、個別施策においても多様な施策や事業を掲げています。
学び直しや生きがいがづくり、高齢者の雇用創出等を検討する必要がある。	人生100年時代になり、学び直しや生きがいがづくりは大切なことであり、リカレント教育や生涯働ける場の創出等、進めていくことが必要であると考えており、個別施策1-②、4-③等においても施策や事業を掲げています。
「協働力」と「産業経済関連」の施策は、豊かな暮らしを実現するための推進力であり支えである。	ご意見のとおりであり、本理念である「協働のまちづくり」や産業経済関連は、施策を推進する上での重要な要素・キーワードとして捉えていきます。
「都市基盤関連」は既存施設のメンテナンスばかりではなく、「交通・移動」手段など全体に関わる大きな変化を市民に提示していく役割として位置づける。	ご意見を参考にし、戦略の柱(6)の都市基盤関連中に交通・移動についても位置づけました。
20年後の方向性を考える上で、協働力を発揮させるための地域自治組織のあり方(生産年齢にある市民層をいかに参画させていくか等)と、掛川市の産業をどのように発展させていくか(付加価値の追求=生産性の向上等)については、市民の皆さんがイメージしやすいように、具体像を例示するのが親切だと感じます。	今後、例示できるよう検討していきます。
掛川市の強みとしては、自然環境を外すことができない	ご意見を参考にし、戦略の柱(3)の環境関連中に自然環境の保全についても位置づけました。
地域コミュニティ意識をこれ以上低下させない	ご意見のとおりであり、地域コミュニティの維持するために地区まちづくり協議会制度の効果的な運用、あるいはその他のコミュニティ維持に寄与する施策を検討しています。
南部地域や若い世代の掛川市へのアイデンティティを強化する	掛川市民に掛川のことを知っていただくことや、広聴の仕組み等、シティプロモーションを併せ推進していきます。また、高校との連携を進める中でアイデンティティを強化していきます。
移動手段の確保	戦略の柱の(4)にあるように公共交通の最適化を進めていきます。

<p>保健医療福祉の更なる充実</p>	<p>戦略の柱の(2)にあるように保健・医療・福祉等、様々な連携を進めていきます。</p>
<p>人生100年時代に向けて、70歳代の人間が働く場（働ける場）を作り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITを活用した、仕事の質・量の複雑さの軽減</li> <li>・安全な移動手段の確保</li> </ul>	<p>ご意見を参考に戦略の柱(5)に移動の最適化や4-③に生涯働ける場の創出、4-④に市内企業に関する支援等に反映しました。</p>
<p>共生とケアのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛川市独自の保険医療福祉の基盤となる理念を打ち出す。報徳思想を現代版として解釈し直し「相互扶助」の精神が広く浸透することを図る。</li> <li>・まちづくり協議会の活動の柱に、共生とケアの理念を位置づける</li> <li>・24時間対応可能な訪問医療システムを構築する。在宅医療センターを設置し、ふくしあと連携させる。</li> <li>・保健医療福祉職の連携を促進する。在宅医療連携モデルを開発する。</li> <li>・ふくしあを拠点として、人生100年時代を迎え、養生・健康観・死生観を醸成する学習の機会を増やす（エンドオブライフケアの基盤）</li> </ul>	<p>ご意見を参考に2-④に地域医療体制の向上、「ふくしあ」による地域包括ケアシステムの充実、2-⑤に高齢者と多様な世代の交流の促進へ反映しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民による助け合い・啓発活動団体が増えるような環境・条件を整備する。</li> </ul>	<p>ご意見を参考に2-⑤に高齢者と多様な世代の交流の促進、認知症の共生と予防、2-⑦に地域で支え合う福祉活動の推進等に反映しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が子育てし、住んで働きやすい環境を整備する。</li> </ul>	<p>ご意見を参考に6-①の多文化共生だけでなく、1-①の教育分野、2-②の子育ての分野等に反映しました。</p>
<p>異分野と交差させることで、新しい価値・健康産業を生み出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と健康増進と娯楽・観光「エコ・ヘルス・リゾート」</li> <li>・農業と健康・福祉</li> </ul>	<p>ご意見を参考に3-③には、森林や海岸の活用、4-①には、体験型観光、4-⑤には、障がい者雇用の農副連携支援を反映しました。</p>